

今年一月に公募した市民編集委員に、次の皆さんが選任されました。第二回目となる四人の新しい市民編集委員の皆さん。今号から二年間、この「みんなで作る市民編集のページ」を担当します。今月七日に市役所で開催された第一回目の編集会議では、それぞれの応募動機を語り合いながら、今後の編集方針や記事の企画などについて話し合いました。ここでは、四人の編集委員皆さんの問題意識や紙面作りに向ける意気込み、抱負などを紹介します。

問い合わせは広報広聴課 890 6642へ。

## 分かりやすい医療情報

大沢 幸 恵（江木町・34歳）



「分かりやすく医療情報を知る方法はないだろうか」。十年前、本市へ転入後にまず感じた大きな不安です。それが、広報紙に対する関心を持つきっかけとなりました。県内には大小数多くの病院がありますが、わたしたちは不幸にして患者にならない限り、これらの病院の情報を詳しく知ることは難しいのではな

いでしょか。

夜間、高熱を出しやすい乳幼児を抱える家族に、二十四時間体制の救急病院はなくてはならないものです。しかし、それらの病院も小児科医が常駐しているとは限らず、全科で救急患者の受け入れ態勢を整えるのは難しいようです。一刻を争う患者にとつて、詳しい医療情報の提供が不可欠だと思います。

昨年二月十五日号の本紙に掲載された市民アンケートの集計では、重点施策に四四・三%の人が「保健医療体制の整備」を、高齢者対策には九〇・二%の人

が「健康維持」を挙げていました。医療への関心はとても高いことが分かります。

「適切な病院選び・利用法」を考え、かかりつけの医師と地域医療を支援する病院との関係、それぞれの役割についても、この機会に調べてみたいと思っ

## 温かい心遣いを大切に

杉山 市郎（関根町・64歳）



市民になって、もう二十年以上たちますが、初めて本市を訪れたとき、今でも忘れられないことがありました。前橋駅に着くと旧駅舎の待合室のベンチに座布団が敷いてあったのです。市民の温かな心遣いに触れたような思いでした。

そしてひと月前、紅雲町二丁目にある龍海院を訪ねようと、歩道の案内板を頼りに歩いていくと、何人もの心優しい人たちが親切に道を教えてくれたのです。そのおかげで、まだ堅いつぼみの桜が並ぶ参道へとたどり着くことができました。こうし人々々の心の温かさがあるから

こそ、ずっとここに住んでいたと思っ

今、変化と広がりを見せようとしている前橋市。歴史を守り続け伝えていく皆さんと一緒に何かお手伝いがしたいと考えていて、広報紙でも取り上げていくつもりです。また、本市を訪れる人にはやさしく分かりやすい案内表示を、また、住む人には安心できる環境を守ることが大切ではないでしょうか。

動く歩道は無理でも、前橋駅からさまざまな見所などへの道が誰にも分かりやすく整備され、そこがより一層魅力のある場所となれば、本市もにぎわいのある「水と緑と詩のまち」になることでしょう。

このページも「暮らしの案内役」として、いつまでも手元に保存していただけるよう、心のかもった企画を目指します。